

議事日程第4号

平成26年6月18日(水)

第1 議案上程(議案第44号から第51号まで及び報告第3号から第11号まで)
質疑、常任委員会付託

第2 予算特別委員会付託

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員(20人)

1番 佐藤 巳次郎	2番 三浦 一郎	3番 米谷 勝
4番 木元 利明	5番 佐藤 誠	6番 古仲 清尚
7番 笹川 圭光	8番 安田 健次郎	9番 進藤 優子
10番 吉田 清孝	11番 船木 金光	12番 船橋 金弘
13番 畠山 富勝	14番 船木 正博	15番 中田 謙三
16番 小松 穂積	17番 土井 文彦	18番 三浦 桂寿
19番 高野 寛志	20番 三浦 利通	

欠席議員(なし)

議会事務局職員出席者

事務局長	木元 義博
主席主査	湊 智志
主席主査	杉本 一也
主席主査	夏井 大助

地方自治法第121条による出席者

市長	渡部 幸男	副市長	伊藤 正孝
教育長	杉本 俊比古	監査委員	湊 忠雄

総務企画部長	山本春司	市民福祉部長	船木道晴
産業建設部長	原田良作	教育次長	目黒重光
企業局長	安藤恒昭	企画政策課長	菅原信一
総務課長	藤原誠	財政課長	佐藤盛己
税務課長	鈴木金誠	生活環境課長	渡部源夫
介護サービス課長	水戸瀬重孝	福祉事務所長	夏井正士
農林水産課長	中田和彦	観光商工課長	飯澤主貴
建設課長	三浦秋広	病院事務局長	杉山武
会計管理者	天野綾子	学校教育課長	鈴木雅彦
生涯学習課長	加藤秋男	監査事務局長	畠山喜代和
企業局管理課長	松橋光成	選管事務局長	(総務課長併任)
農委事務局長	(農林水産課長併任)		

午前10時02分 開 議

○議長（三浦利通君） 皆さん、おはようございます。

これより、本日の会議を開きます。

○議長（三浦利通君） 本日の議事は、議事日程第4号をもって進めます。

日程第1 議案第44号から第51号まで及び報告第3号から第11号まで
を一括上程

○議長（三浦利通君） 日程第1、議案第44号から第51号まで及び報告第3号から第11号までを一括して議題といたします。

これより議案に対する質疑に入ります。

質疑の通告がありますので、発言を許します。

13番畠山富勝君の発言を許します。13番畠山富勝君

○13番（畠山富勝君） おはようございます。

私から、議案第47号の一般会計補正予算に係る大綱的な見地に立って、市長の観光に対するその考え方をお尋ねしたいと思います。

このたびの要望書ですか、観光協会からも上がっておりますけれども、それらについては、この後、予算特別委員会、あるいは常任委員会等で詳細に審査されると思いますので、私は大綱的なことで、質問させていただきます。

申すまでもなく、本市は国定公園に指定される以前から観光事業に非常に力を入れて今日まで至っているわけでありまして、そして、市長もまた就任以来、この観光に取り組む姿勢が強く感じられまして、思いが感じられてきたところでございまして、そして、まず即効性、即効性と、とにかく即効性、そして結果を出さなければならない。そして交流人口から定住定口と、こういうふうな一つのスタンスの中で今日に至っているところでございます。

またその間、観光協会をはじめ各種観光に携わっている団体と当局と、都度意見交換会などを設けてきておりますし、また、私ども議会においても、観光議員連盟を設立いたしまして、一年に一回、議員と観光協会、各種団体との意見交換会、あるいはまた、幹事会と観光協会との話し合いとか行っているところで、直接・間接的に

その現場に携わっている方々の声が届いてきていると思いますけれども、そういう中で市長は築港100年、あるいはこのたび海の日モデル地区に認定されたとか言っておりますし、そして海フェスタ、いろいろなその即効性の中で、結果は私方は余り感じないですけれども、5年ちょっと経って感じないですけれども、そういうふうなイベント、イベントということで今日に至っております。

そこで、このたびですね、当初予算においても、そういう中で目新しいその予算というのはなかった。私はDCが終わったら、今度このたびの補正予算に何らかこう組み込まれるのかなと、そう思っておりましたけれども、これらについてもこのたびの補正予算にも上がっていないと。特にデスティネーションキャンペーンは、JR東日本グループがその地域に、いわゆるそのきっかけをつくるんだと、お客さんを連れてきて、そしてこの後自治体がそれをきっかけに、どうやって中・長期的な展望を持ってこの政策・施策をしていくのかということだと思っておりますよ。それらについて、このたびは要望書も上がってきておりますけれども、今ごろこういうのが上がるのもおかしいわけで、本来であれば3月当初に向けて12月ころ、上がってきてもおかしくないわけですが、こういうふうにして上がってきたというのは、非常に観光協会だけでなく、大きなその携わっている方々においては期待感が、何らかの期待感が持たれていたのではないかなと思っておりますけれども、今後、市長は、この観光行政として、どういうふうな考え方で男鹿の観光を進めていくのかなと、その辺のところをお尋ねいたします。

○議長（三浦利通君） 渡部市長

【市長 渡部幸男君 登壇】

○市長（渡部幸男君） おはようございます。

観光に対する考え方がありますが、言うまでもなく観光というのは、教育、観光、環境と、いつも申しておりますが、市の大きなテーマの一つであります。そして、今、ことしの大綱的なということであれば、今、前から申しております県と協働政策プログラムに関しまして、男鹿市と秋田県と一緒にあって観光について考えるというプロジェクトをやっております。今まで、例えばジオパークだとか、あるいはツバキに関連したとか、いろいろなことを検討してまいりました。今、新たに例えば一つの例として、これは最終的に決まってはおりませんが、寒風山の観光を再開発しようと

というような考え方もございます。それも含めて協働政策プログラムの中で、秋田県と連携して、全体の中で男鹿市の、寒風山に限らず今までの新しいといたしますか、もちろん今までも観光の資源ではありましたけれども、さらにもう一度それを見直すということを中心に、これからの男鹿の観光を考えていきたいというふうに思っております。

○議長（三浦利通君） 再質疑、13番畠山富勝君。

○13番（畠山富勝君） それは県との連携ということで、県の方からもこのたび観光課長がおいでになって、それは十分理解しておりますけれども、いわゆるその県と行政、現場に携わっている観光協会の声というものを、もうちょっとつぶさに聞いていかなければ、例えば、このたびデスティネーションキャンペーンで女優の吉永小百合さんが来て、ああいうふうに全国的に放映されて、冬の寒いときでもかなりの観光客が来たところ、ところが、例えば観光協会の方で案内人を派遣して、そしてその案内人が緊急雇用の方々がなされて、そして、このたびその緊急雇用、御存じのように1年雇用ですので、ようやくノウハウをある程度得たが、なかなか再雇用できないと。今、この県との連携もわかるんですけれども、その何といたしますか、せっかくここまでJR東日本が二、三年前から、何ていうんですか予備的な、そういう周知方法をとって、そして集大成としてことしで終わったわけなんですけれども、あと何も策がないと。非常に私は、それが何かこう観光に取り組む、まず県との連携もわかりますけれども、これをやっぱり千載一遇の中で、もうちょっと独自のものがあってもいいのではないかなと。今、観光は教育、観光云々と言いますけれども、私やっぱり観光はもちろん観光、教育、農林漁業、そして福祉、この四つの柱が私は観光の基礎となるものだと思っております。ですから、単発でそのイベント、イベントと今やってきているが、そうすれば市長、その中で定住人口につながる、あるいはまた、その結果がと言ってきましたけれども、5年ちょっとの間で市長はこういう結果があったじゃないですかと、こういう実績があったではないですかという部分があったら、ひとつお示しいただきたいと思っております。

○議長（三浦利通君） 渡部市長

【市長 渡部幸男君 登壇】

○市長（渡部幸男君） 観光のそのイベントということに関しては、イベントの期間と

というのは大変限られております。その期間の中に集中して人がおいでいただくことによって、その方たちがいわゆる男鹿の観光をアピールしてくださる方、いわゆる男鹿のファンになってくださる方ということをややすということを目的にやってみりました。期間が、例えば海フェスタであれば約2週間、2週間の結果で1年間をカバーすることは、これは大変難しいことでもあります。ただし、それをやることによって、その期間には例えば海フェスタ関連の方は間違いなくいらしているはずで、その方たちは男鹿のことを理解していただいていると。そういうことの積み重ねが私は必要だと思っております。成果ということ、どのように捉えるかは、いろんな見方がありますが、例えば対外的に築港100年をやったことによってポートオブザイヤーズグランプリを、2011船川港、あるいは港オアシスの指定を受けたとか、あるいは海フェスタを開催したとか、あるいはことしで言えば海の日モデル地区に認定されるのか、そういう対外的に発表できるものがまず、それだけではありませんが、それは一つの成果でありましょうし、人に関して申し上げれば、イベントをやらなければ、それに関連する方はいらっしゃらない。何かそれを年間通してやるということは、やはり行政だけでは無理があって、リピーターでなくても、いいところを発信してくださる方々をやしていくと、この積み重ねでしか今の観光ということは掘り起こせないというふうに思っております。

○議長（三浦利通君） さらに、13番畠山富勝君。

○13番（畠山富勝君） 問題はそれとおりになんですけれども、いろいろなことを組み合わせることで、それはいつも市長言ってることなんですけれども、要するに費用対効果だと思うんですよ。それはやれば必ず来ますよ。来ますけれども、じゃあそれらとあわせて中・長期的な政策・施策というのが今まで見られなかった部分が多いわけなんです。そういう中で、ポートオブザイヤーズグランプリ、あるいは港オアシスの指定と言うけれども、この地域の、船川の方々が、冊子に載ったとか、ノミネートされて云々とかって言ったって、そんなに実感わいてないと思いますよ。言ってみれば、非常に口幅ったい言い方かもしれませんが、それぞれが一人何通でもその何ていうんですか、やらせのような手紙を出させて、そしてその後、そういうのあったのかなという感じなんですよね。ですから、私はそうでなくて、もうちょっと現場に携わっているそういう方々に耳を向けながらですね、例えばその人を育てていくと。緊

急雇用でやれば、あとこれは国の事業だから終わったと。私はね、例えば、観光に限らず、何というんですか、例えば海フェスタ、最終的には1億ちょっとかかったような気がしております。そして非常に男鹿も男鹿ですけれども、秋田市、あるいは潟上市に大変喜ばれております。おかげさんで男鹿のお客さんで、男鹿でこういうような事業をやってもらってと、大変喜ばれているわけですが、その海フェスタについても、例えばこれだけの金をかけたときに、緊急雇用の人がようやく一人前になって、そして今度使えるのかなと思ったときに、もう使えないと。事業所も体力がないと。私はこういうときに、この埋もれた人材を発掘して生かして、育てて、一人前にするとなれば、我々職人であっても、あるいはまたそれぞれ職場であってもそうだと思うんですよ。昔はやっぱりその奉公ということで、ただでこうやったけども、今そうでもない。しかも国の政策が、月18万も何十万も出して、仕事のわからないものに出して、そして1年限りで終わって、追分の職業訓練所に行って給料もらいながらと、こういうのを繰り返している今日で、3年間であったわけですが、確かにそれはやらなければ人が来ませんけれども、費用対効果の中でそれもそうですけれども、そのかかったお金の幾らかがあれば、例えばこの緊急雇用で使った事業所へ、事業所が半分なら半分、行政が半分なら半分支援すると、こういう政策・施策があって、そして埋もれた人材を掘り起こすと、そういうふうな観光事業は特になんですけれども、あってもいいのではないかなと思いますけれども、その辺については市長、どのように考えていますか。

あともう一つは、そういうふうに今、市長が市外から男鹿に入ってきた人に対しては、市営住宅を建てて、そして15年住めばそれを提供してやると。それで5世帯ぐらいがいて、例えば5人家族の5世帯分、25人の方々が今、男鹿に入ってきているけれども、その間に市長が政策をやって今日までの間で、そういうその仕事がないとか、それから市営住宅は高いとかとあって、そして人口が流出している、その追跡調査とかってしておりますか。たかがこの5世帯取るために、そういうふうな政策、大枚な金を使って、出ていく若者がそれ以上になっているということの実態というのは、追跡調査しているものですか。

○議長（三浦利通君） 渡部市長

【市長 渡部幸男君 登壇】

○市長（渡部幸男君） 海フェスタの費用対効果については、今ここで数値は持っておりませんが、いわゆる第三者から報告を受けて、いわゆる経済効果があったというふうにご報告しております。

人のその何といいますか雇用についてであります。

観光の雇用についておっしゃってございましたけれども、これ観光ではありませんが、何年間かいわゆる雇用をして、これは国の制度であります、その分のいわゆる人件費を見て、その上で正社員に雇用されたというのは、この場で何度かご報告しているとおりであります。

また、いわゆるその若者の流出、追跡調査というのは、今回の議会でも何人かの議員の方が取り上げられた人口問題との全く同じ問題でありますから、今これを追跡調査というよりも、出ていかれる方というよりも、これから入ってこられる方、あるいはここで新たに住まわれる方ということを中心に検討していきたいと思っております。

○議長（三浦利通君） 13番畠山富勝君の質疑を終結いたします。

以上で、通告による質疑は終了いたしました。

ほかに質疑ございませんか。

（「なし」と言う者あり）

○議長（三浦利通君） 質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

次に、議案第44号から第46号までについては、ご配付いたしております議案付託一覧表のとおり、所管の常任委員会に付託いたします。

日程第2 予算特別委員会の設置、付託

○議長（三浦利通君） 日程第2、予算特別委員会の設置についてを議題といたします。

お諮りいたします。予算に関する件を審査、調査することを特定事件とし、委員会条例第6条の規定に基づき、議員20人の委員で構成する予算特別委員会を設置し、議員任期満了の日まで継続審査にいたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（三浦利通君） ご異議なしと認めます。よって、予算に関する件は、20人の委員で構成する予算特別委員会を設置し、議員任期満了の日まで継続審査とすることに決しました。

さらにお諮りいたします。議案第47号から第51号までについては、予算特別委員会へ付託することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（三浦利通君） ご異議なしと認めます。よって議案第47号から第51号までは、予算特別委員会へ付託することに決しました。

委員会条例第10条第1項の規定により、予算特別委員会を明日19日午前10時より議事堂に招集いたします。

以上、告知いたします。

○議長（三浦利通君） 以上で、本日の議事は終了いたしました。

休会の件

○議長（三浦利通君） お諮りいたします。明日19日から25日までは議事の都合により休会いたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

○議長（三浦利通君） ご異議なしと認めます。よって、明日19日から25日までは議事の都合により休会とし、6月26日、午後2時より本会議を再開し、各委員長の報告を求めることにいたします。

本日は、これにて散会いたします。

大変どうも御苦労さまでした。

午前10時23分 散 会

議案付託一覧表

総務委員会

- 議案第44号 財産の無償譲渡について
- 議案第45号 字の区域の設置について
- 議案第46号 男鹿市過疎地域自立促進計画の変更について

予算特別委員会

- 議案第47号 平成26年度男鹿市一般会計補正予算（第1号）について
- 議案第48号 平成26年度男鹿市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について
- 議案第49号 平成26年度男鹿市下水道事業会計補正予算（第1号）について
- 議案第50号 平成26年度男鹿市農業集落排水事業会計補正予算（第1号）について
- 議案第51号 平成26年度男鹿市漁業集落排水事業会計補正予算（第1号）について